

4年 国語科学習指導案

日 時 平成24年7月13日

第2校時（2組）、第3校時（1組）

場 所 4年各組教室

1 単元名 物語を読んで紹介しよう

2 教材名 「一つの花」

3 指導の立場

（1）教材観

この物語は、ゆみ子に対する両親の思いが、「一つだけ」というキーワードを軸に人物の行動として表現され、出来事が展開する。戦争中と「十年後」の戦争の後の場面の移り変わりをとらえることはもちろん、父母のゆみ子に対する思いを叙述に即して読むことにも取り組みたい。また、「一つの花」という題名が象徴するテーマを巡って、様々な角度から着目することができるため、人との考え方、感じ方の違いへの気づきを促すことができる。と考える。

言語活動に関わっては、テーマ性の強い物語であることや、時代設定、人物同士の関係、キーワードがとらえやすい等と、着目した観点にそって伝えることに適していることから、本を紹介する活動に適していると考えた。同じテーマの本を選んで読み、読書の範囲を広げ、それぞれが選んだ本を紹介し合っ感想や意見を交流し合う言語活動に生かすことができる。また、平和を願うというテーマをもつ本へと読書の世界を広げ、ものの見方、考え方を深めることにつながる。

（2）本単元のねらいに関わる学年の児童の実態

4月教材「白いぼうし」において、登場人物の性格や気持ちを想像しながら読むことを学習している。また、言葉に着目し、色、においなど五感に関わって、情景を想像しながら読むことも学習している。本単元では、題名の「一つの花」とそれに関わって各場面に繰り返し出てくるキーワード「一つだけ」に注目して人物の気持ちや場面の情景を想像すること を大切にしたい。

読書紹介活動に関しては、2年時にはあらすじをまとめて紹介する活動を、3年時には同じ作者の作品から本を選び、登場人物を中心に紹介する活動を行ってきた。また、「ちいちゃんのかげおくり」で戦争の物語を学習している。しかし、児童にとっての戦争は断片的な知識であることや体験していないことで、「戦争なんかやらなければいいのに。」「何で家族をほっておいて戦争に行くんだらう。」と悲惨さが実感としてはない。平和の大切さについて考えた経験も浅い。

本単元では、友達との交流を図りながら、戦争時の時代背景や父母のゆみ子に対する思いを想像しながら読んだり、戦争中と戦争後の時の経過を意識して読んだりすることで、主人公ゆみ子の戦争体験に迫りたい。また、児童に読書会の本を紹介する中で、世界の国々の中には、現在もゆみ子と同じように食べるものもなく、親とも離ればなれになって生きている同世代の子どもたちがいることにも気づかせ、戦争の悲惨さや不合理さを強く感じさせたい。また、どんな状況下でも子を思う親の思いの深さは不変であることを味わい、人間の情と戦争の悲惨さとの対比からも、平和への願いを新たにしてほしいと考える。

(3) 指導観 研究テーマに関わって

①言語活動の充実を図った単元指導計画のあり方

○ねらいや目的に応じた言語活動の充実

本単元で指導する言語活動については、「読むこと」の言語活動例のアが考えられるが、「エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。」を加えることで、さらに単元を充実させることができると考えた。

「読むこと」の言語活動例のア、エ

ア 物語や詩を読み、感想を述べあうこと。

自分の感想を明確にするためには、低学年で指導したものに加えて感想を表す言葉を増やすことが求められる。また、感想が本や文章のどの叙実に基づいているのか、自分が現実に体験したこと、普段考えていること夜間心のあることなどと、どのように関連しているのかなどを説明することも必要となる。感想を述べあったら、自分の感想が、友達の感想と比べてどのような特徴を持つのかを認識させていくことが大切である。

エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。

この言語活動では、なぜ紹介したいかという、紹介するにふさわしい理由を十分説明することが必要となるので、選んだ本の内容や構成全体をよく理解することが欠かせない。そのため、例えば、必要な文や語句を書き抜いたり、要約したり引用したりするなどの準備が必要となる。

そのために、「『平和』をテーマにした本を読んで、友達に紹介しよう」という単元の目標を設定し、教材と共に平行読書を行う活動を計画した。

②学び合いを通して、読みや表現を深める授業のあり方

○願いや見通しをもつ場、交流して学び合う場、学習を振り返る場の設定及び工夫

本単元では、友達との交流を通して、読み取った内容について感想や意見などをまとめ深めあいながら、自分と友達との感じ方について違いのあることに気付くことをねらいとした学習を展開したい。一人一人の読みを確立するためには、まず自分の思いをはっきりと自覚することが大切である。前述の平行読書を始める前に、「世界がもっと平和になるために」をテーマに読書会を開くことを伝え、どんな本を選べばよいのか、何を視点に読んでいけばよいのかを明確にしていく。また、取り上げる作品を文学作品にこだわらず、世界の国々の現状を表したドキュメンタリーや歴史写真集的なものも取り上げ、一人一人が広く平和について考えていけるようにする。

③協同的に学び合う学習集団の育成

○学び合いを進める話し合い指導のステップや手立ての明確化

第2次に「一つの花」を紹介する活動を仕組み、一人一人の感じ方の違いを実感する学び合いの場を設けた。また、平和をテーマに自分で選択した本においても、感想を書く視点として、『「一つの花」とくらべて』似ていること、違うところを考えさせることで、各自が選んだ本の読書会であるが、共通の視点を得られるようにした。

また、本時の読書会では、テーマにせまるためのアプローチの仕方をモデルで示し、自分の考えを明確にもてるようにする。

4 単元指導目標

◎場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。

◎物語を読んで感じたことや考えたことを交流し合い、友達との感じ方・考え方の違いに気づくことができる。

○紹介したい本を選んで読み、それについて書いたものを発表し合って、書き手の考えの明確さなどについて意見を伝え合うことができる。

5. 単元指導計画（全8時間）

次	時	ねらい	学習活動	指導援助・評価規準
1	1	学習の見通しをもち、「『平和』をテーマにした本を読み、友達に紹介する」という学習に意欲をもつことができる。 題名から内容を予想し、物語を読んで感想をもつことができる。	1. 単元名とリード文から学習の見通しをもつ。 学習のめあてを知り、初めの感想を書こう。 2. 題名「一つの花」から、内容について想像する。 3. 「一つの花」を聞き、初発の感想をもつ。	- 単元の導入で自分が選んだ本の読書会を行うこと、そのために「平和」をテーマとした並行読書を促す。 「一つの」という表現に着目し、 題名は作者の思いが込められていることを押さえる。 【関】 - 題名から内容を予想し、物語に興味をもって聞き、自分なりの感想をもっている。
2	2	物語の設定をとらえ、第1場面について、人物の行動や会話に着目して、人物の気持ちや世の中の様子、出来事を読み取ることができる。	1. 物語の設定を確かめる。 2. 学習のめあてを確認する。 第1場面のゆみ子やお母さんの行動・会話から気持ちを想像したり、戦争中の厳しい状況について読み取ったりしよう。 3. 人物の行動や会話に着目し、気持ちを想像し書く。また、その時の世の中の様子や出来事をまとめる。	- 登場人物、時、場所など物語の設定を確認する。 - ゆみ子が最初に覚えた言葉から、戦時下の厳しい状況を読み取る。 「一つだけちょうだい。」と「もっともっと」をつなげて考えさせることにより、母親の心情を想像できるようにする。 【読】 - 行動や会話に着目して読み、戦争中の暮らしや人物の気持ちを想像して読んでいる。
	3	第2場面について、人物の行動や会話に着目して、人物の気持ちや世の中の様子、出来事を読み取ることができる。	1. 学習のめあてを確認する。 第2場面のゆみ子や両親の行動・会話から気持ちを想像したり、戦争中の厳しい状況について読み取ったりしよう。 2. 人物の行動や会話に着目し、気持ちを想像し書く。また、その時の世の中の様子や出来事をまとめる。	- 父親の言葉や高い高いする行動から、ゆみ子の将来を心配する父親の気持ちを読み取らせる。 - 一輪のコスモスを渡す父親の気持ちを考えさせるために、ゆみ子の「一つだけ」と父親の「一つだけ」の意味は同じなのかを考えさせる。 【読】 - 両親やゆみ子の行動・会話を読み取り、「一つだけのお花」に込められた父親の思いや願いについて考えている。

	4	第3場面を読み取り、「一つの花」という題名に込められた作者の思いについて考えることができる。	1. 学習のめあてを確認する。 第3場面のゆみ子や行動・会話から気持ちを想像したり、「一つの花」に込められた作者の思いについて考えよう。 2. 戦争後のゆみ子と母親の暮らしについて読み取る。 3. 「一つだけ」という言葉が第3場面では出てこない理由を考える。 4. なぜ作者は「一つの花」という題名をつけたのか考える。	・「たくさん」を感じさせる言葉に着目し、戦争中と戦後の場面を比較する。 ・二人の暮らしぶりから、母親の気持ちを想像する。 ・「一つ」という言葉に作者がどんな気持ちを込めているのかを考えさせる。 【読】 ・行動や会話から戦後の暮らしについて想像を広げて読むとともに、題名に込められた作者の思いについて考えている。
	5・6	「一つの花」の紹介をし合い、一人一人の感じ方の違いに気付くことができるようにする。	1. 学習のめあてを確認する。 「一つの花」を紹介する読書会をしよう。 2. 物語の紹介のしかたを確かめる。 3. 「一つの花」について、紹介する準備をする。 4. グループで読書会をし、感想を交流する。	・物語を紹介する際に取り上げる事柄を教科書 P.74 を参考に2つ決めさせる。 ・決めた事柄について、伝えたいことを根拠を明らかにしてカードに書き出させる。 ・話し始めと結びを考えさせる。 ・自分の紹介との違いに注意して聞くように促す。 【読】 ・作者の思いや願いについて、自分の考えをもっている。 ・紹介を聞き合い、一人一人の感じ方の違いに気付いている。
3	7・8 本時	「平和」をテーマにした本を紹介し合い、友だちの感じ方や考え方の違いに気付くことができる。	1. 学習のめあてを確認する。 「平和」について書かれた本を紹介し合う読書会をしよう。 2. 読書会の準備をする。 3. 読書会をし、感想を交流する。	・「一つの花」の読書会を振り返り、よかった点を取り上げ、意欲付けをする。 ・必ずしも他の児童が読んでいるとは限らないので、作者名・題名・物語の設定を伝えたとよいことを知らせる。 【読】 ・「平和」をテーマにした本から選んで読み、友達に紹介している。 ・紹介を聞き合い、一人一人の感じ方の違いに気付き、感想を交流する。

6. 本時のねらい

『だれもが平和にらせる世界を願って』をテーマに、自分が感じたことや考えたことを紹介する読書会を通して、一人一人の感じ方や考え方に違いがあることに気づき、感想を交流することができる。

7. 本時の展開（8／8）

	学習活動	指導・援助・評価 ◎評価規準
つかむ	1. 本時の学習のめあてを確認する。 「平和」をテーマに書かれた本を紹介する読書会をしよう。 ・紹介メモをもとに、本を紹介する練習をする。	・前時に準備した本の紹介メモを確認める。 ・発表内容のポイントを記入した発表メモを見ながら、紹介の練習をする。 ・支援が必要な児童には、メモではなく、発表原稿を作らせる。
深める	2. 自分が選んだ本を紹介する。 ◆発表内容 ①本の題名、作者名 ②物語の設定・あらすじ ③ { 心に残ったこと 初め知ったこと 心に残った言葉 「一つの花」と比べた相違 など ④「平和」の対する自分の意見	・読書の幅を広げるために、違う本を選んだ児童をグループにする。 ・事前に、発表順序と場所は決めておく。 ・聞き手に自分の伝えたい内容が伝わるよう発表することができるよう、声の大きさ、発表内容を支援する。 ・分かりやすい発表にするために、本を提示したり、引用した部分のページを見せたり、音読したりする。
まとめる	◆聞く観点 ・声の大きさ ・発表の内容 ・発表の工夫 ・感想（平和に対して自分の考えと比べて） 3. グループでの発表から気付いたことや感じたことを感想カードに書く。 ・テーマ「平和」について、友達の考えと似ているところ、違うところ ・友達の紹介を聞いて思ったこと 4. 学習のまとめをする。 ・友達の発表を聞いて、感じたことについてグループで交流する。	◎【読】「平和」をテーマにした本から選んで読み、友達に紹介する。 ・聞く側は、自分の「平和」に対する考えと比べ、感想をメモする。 ◎【読】物語の紹介の仕方から、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。 ・司会者を立て、意見を交換させる。 ・友達の感想や読み方と、自分の考え方とを比べ、共通点や相違点があることに気付かせ、今後の読書生活に生かしていけるようにする。